ごあいさつ

北海道教育大学附属旭川中学校
校長　川邊　淳子

日頃より，本校の教育・研究に関しまして，ご理解・ご支援を賜りまして，誠にありがとうございます。

長きに渡るウィズコロナの中で,学校教育においても様々な制限を受けて参りましたが，その中で新たな教育・研究の形を模索し，創造して参りました。生徒たちにとってタブレットは授業においてはなくてはならないツールとなり，それにより授業内容や方法なども大きく変化し，単なる対面授業ができないことによる代わりのものではなく，新たな教育の創造となってきております。また，それらを柱とした研究の方も，オンラインでの開催を実施することで，今までなかなか参集することができなかった，全道はもちろん全国の教員との学びの共同体を作るに至り，以前には考えも及ばなかった，新たな研究のあり方や方向性を考えるところとなって参りました。

本年度の研究は，「『質の高い学び』の創造」を研究主題とする３年次に当たります。詳細は「研究の概要（総論）」ならびに各教科からの報告に譲りますが，１年次研究では,「質の高い学び」の実現を促す方策について,「『意欲』から『意味』への転換」「知識発見から知識構築のプロセス」「知識や最適解を他者と創るプロセス」「『学び方』を学ぶ自己調整的な学び」という４つの視点を手掛かりとし，各教科等の本質を捉えつつ研究を推進し，生徒の学びの質の高まりをみることができるようになって参りました。また２年次研究では，前述の４つの視点を踏まえつつ，相互の関連やつながり，連続性に注目して，さらに研究を深めて参りました。そして本年度の３年次研究では，個々の学びの相互の関連やつながり，連続性に注目しつつ，単元や題材のレベルにおいて生徒の学びや評価をひとまとまりのものとして捉えるべく，研究を深めて参りました。個別最適化かつ協働的な学びの創造の中で，学習者の自立を図る確かな手立ての開発を目指して，それを具現化する４つの視点のうち，各教科が重点を置く項目について研究・実践を重ねて参りました。本紀要は，その成果をまとめたものとなります。

新型コロナ感染症の拡大を避けるため，来校型の「授業公開」「研究協議」については，事態が収束するまで見合わせることとしておりました。しかしながら,「学びを止めない」≒「実践研究を止めない」を目指し，令和２年度から，授業（単元・題材）の様子を VTR に収め編集したものを動画配信サイトを通じてご覧いただき，web 会議システムを用いて「研究協議」を実施してきました。「授業力向上セミナー」における共同研究者や助言者の皆様，ご視聴・ご参加くださいました皆様にこの場をお借りしまして，厚く御礼申し上げます。

ウィズコロナにあっての教育・研究は，ポストコロナへこれから新たな局面や展開を迎えていくものと思います。今年度はこれまでの研究の一つのまとめとはなりますが，次年度以降の新たな研究への確かな礎となるように，また，理論と実践を往還する研究とさらになっていくようにと願っております。まだまだ課題も多くございますが，その課題こそが今後の研究の原動力ともなって参ります。

本紀要につきましても，忌憚ないご示唆をいただけましたら幸いでございます。